

第4回環境を考える 包装革命シンポジウム

— 循環型社会を構築していく上で包装が果たすべき役割 —

カーボンフットプリント最新情報の他
3時間にわたるパネルディスカッションで現状と今後を読み取ってまいります

- 開催日：平成23年3月9日(水)
- 会場：アルカディア市ヶ谷
- 主催：社団法人 日本包装技術協会 関東支部

開催にあたって

環境問題は先進国であろうと開発途上国であろうと、今後、地球規模で問題を解決していかなければならない重要な問題です。環境問題がここまでの問題に至った背景は、産業革命以降における先進国の利潤第一の企業活動の在り方と、一人一人の行動パターンに起因しています。その様な中、今日、我々企業人に求められるのは、環境配慮を企業活動に取り入れた確固たる企業理念の確立と、そこで働く人間の更なる知識の向上と意識の改革です。

今日では、循環型社会を模索する専門書籍やWebによる大量の情報が存在するとともに様々な勉強会が活発に行われています。

本シンポジウムでは、包装に直接関わる問題は勿論のこと、最終的に関わらざるを得ない問題を確認するとともに、皆様が過去に知り得た情報同士が「線」で繋がるよう、各界の専門家の皆様になつぱりと時間をとってフリーディスカッション頂きます。

『あの時に聞いた話はここと繋がるのか』『こんな考え方をするのか』など、環境と包装を再度見直す絶好の機会かと存じますので、関係皆様お問い合わせの上奮ってご参加下さいませ様ご案内申し上げます。

パネリストの紹介

- 山室 芳剛 氏
経済産業省 産業技術環境局 環境調和産業推進室 課長補佐(総括)
東京大学卒業後、経済産業省入省。経済産業政策局企業行動課係長、商務情報政策局情報政策課課長補佐の後、現職、環境調和産業推進室総括補佐。
- 有田 俊雄 氏(企画委員)
株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長
1956年 東京大学工学部応用化学科卒業
日本バルブ工業(株)(現王子製紙(株))、ダイヤパッケージング(株)(現三菱商事パッケージング(株))を経て、
1997年～ パッケージング・ストラテジー日本代表
2007年4月 株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン を設立、取締役社長
技術士・包装管理士 2005年「米国包装功労賞(包装殿堂)」受賞
著書：「包装“国際化”宣言」日報(2000)、
[共著]「Japan Packaging Innovations: Technology and Industry Report」(英文：Packaging Strategies, 2005)
[定期刊行物] Packaging Strategies Newsletter(日本語版)
- 後藤 敏彦 氏(企画委員)
NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事
1964年 東京大学 法学部 卒業
環境監査研究会代表幹事、サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク(NSC)代表幹事、社会的責任投資フォーラム会長、グローバル・コンパクト・ボード・ジャパンメンバー、JCSJ共同議長、拓殖大学客員教授、東京経済大学現代法学部非常勤講師、環境経営学会(理事)、地球システム・倫理学会(常任理事)、環境管理規格審議委員会・EPE小委員会委員・14005WG委員、日本環境経営大賞審査委員 等
著書：「サステナビリティと本質的CSR」(2009、共著監修三和書籍)、「環境 持続可能な経済システム」(2010、共著、勁草書房) 等
- 長谷川 浩 氏(企画委員)
大日本印刷(株) 環境安全部 シニアエキスパート
1975年 大日本印刷(株)入社、中央研究所包装部門、包装研究所、包装総合開発センター等の勤務を通じて、一貫して包装材料、包装システムの開発業務に従事。
1996年 環境包材対策室 室長 容器包装リサイクル法の制定を機に移籍し、包装事業分野の環境、安全・安心、製品安全(PL)関連全般の業務に従事し、現在に至る。
- 中村 秀次 氏
びん再使用ネットワーク 代表幹事
1978年 生活クラブ生協に勤務
1990年 アースデイの運動に参加
2003年 容器包装リサイクル法の改正を求める全国ネットワーク事務局次長
2006年 びん再使用ネットワーク代表幹事
2007年 びん再使用ネットワークが平成18年度容器包装3R推進環境大臣賞最優秀賞受賞
- 羽貝 泰昭 氏
HAVI Global Solutions(株) ディレクター
1982年 上智大学卒業
同年 大日本印刷(株) 海外事業部 入社
1989年～1993年 豪州駐在
2005年 HAVI Global Solutions K.K.入社
HAVI Global Solutions(HGS)Japanにおいては、日本マクドナルドの店舗における包材の開発から購買、品質管理までの総括業務を担っている。
- 松村あづさ 氏
トムラ・ジャパン(株) セールス&マーケティング部 ゼネラルマネージャー
飲料メーカーのマーケティング部門、商業コンサルを経て、2002年トムラ・ジャパンの前身企業に入社。
以来、日本における事業開発、マーケティングに取り組む。

開催要領

- 日時：平成23年3月9日(金) 13:00～16:40
- 会場：アルカディア市ヶ谷
東京都千代田区九段北4-2-25
TEL：03-3261-9921
- 定員：80名
- 参加費：会員 19,950円(消費税5%、テキスト代含む)
一般 26,250円(消費税5%、テキスト代含む)



- 東京メトロ有楽町線・南北線 市ヶ谷駅A-1出口 徒歩2分
- 都営新宿線 市ヶ谷駅A1-1 A4出口 徒歩2分
- JR中央線 市ヶ谷駅 徒歩2分

申し込み方法

- 本紙申込書に必要項目を全て記入の上、FAXにてお申込みください
協会HPからのお申込みも出来ます。
協会HP：<http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします。
- 当日、都合が悪くなった場合、代理の方の出席は差し支えありません。(当日、名刺を頂戴します)

お問合せ並びにお申込み先

(社)日本包装技術協会 関東支部
環境を考える包装革命シンポジウム係 担当：竹内 行
〒104-0045
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
TEL:03(3543)1189/FAX:03(3543)8970
e-mail: takeuchi@jpi.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「第4回環境を考える包装革命シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

第4回環境を考える包装革命シンポジウム参加申込書

社団法人 日本包装技術協会 関東支部 竹内 行 FAX. 03-3543-8970 No. _____

会社名					
所在地	(〒)				
電話				FAX	
参加者	氏名	所属 役職			e-mail
	氏名	所属 役職			e-mail
	氏名	所属 役職			e-mail

プログラム

時間	テーマ	講演者
13:00 13:40	基調講演 『「CO₂・環境先進性」の見せる化」に向けて ～カーボンフットプリント制度試行事業の成果と今後の取組み～』 21世紀は環境調和の時代。劇的にライフスタイルや産業の在り方が変革しつつある。国際潮流のキーワードは「ライフサイクルシンキング」と「サプライチェーン共同」。欧米・韓国・中国勢は、国レベルでも企業レベルでも「グリーン戦争」とも呼ぶべき大競争に乗り出している。各国でしのぎを削るカーボンフットプリント制度はその試金石のプロジェクト。その中で、日本のカーボンフットプリント制度は信頼性・透明性の高さで世界中から高い評価を得ている。まもなく国事業の最終年度を迎え、残された時間は長くないことから、事業者の早期の参画を期待する。	経済産業省 産業技術環境局 環境調和産業推進室 課長補佐（総括） 山室 芳剛 氏
13:50 16:40	パネルディスカッション —循環型社会を構築していく上で包装がどのような役割を果たしていかなければならないのか— 【司会】 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長 【パネリスト】 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 大日本印刷(株) 環境安全部 シニアエキスパート びん再使用ネットワーク 代表幹事 HAVI Global Solutions(株) ディレクター トムラ・ジャパン(株) セールス&マーケティング部 ゼネラルマネージャー	有田 俊雄 氏 後藤 敏彦 氏 長谷川 浩 氏 中村 秀次 氏 羽貝 泰昭 氏 松村 あづさ 氏
	◎事前発表 (13:50～15:05 各15分) ①『大変化するCSR取組み～バリューチェーン全般についての取組みと情報開示の必要性～』 ISOの第三世代規格と言われるISO26000：SRが2010年11月に発行された。また、CDSB(carbon Disclosure Standard Board)もカーボンについての情報開示フォーマットを2010年10月に公表している。OECD（経済協力開発機構）もその多国籍企業ガイドラインを10年ぶりに大改定中である。いずれにも強調しているのは、サプライチェーンを含むバリューチェーン全般での取組みと情報開示である。ISO26000や多国籍企業ガイドラインは特に人権にも多くを割いていることと、途上国が多いに活用する動きが目目される。包装もこうしたCSRの動きの中で活動しなければ、取引先、社会等から見放されることになりかねないし、逆に積極的に対応すれば企業ブランドの向上等につながるであろう。	NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 後藤 敏彦 氏
	②『循環型社会構築の上で容器包装メーカーの取組み事例と課題』 容器包装の役割はますます深化してきている。 [消費者・小売業・ブランドオーナー・コンバーター・原材料メーカー] というバリューチェーンの中で、コンバーターの取組み事例を紹介する。併せて、本年3月終了予定のカーボンフットプリント試行事業に関わってきた立場から、現在の問題点を紹介するとともに、将来のあるべき姿を予測する。	大日本印刷(株) 環境安全部 シニアエキスパート 長谷川 浩 氏

時間	テーマ	講演者
13:50 16:40	③『2R（リデュース、リユース）を優先する社会へ』 我が国では、リサイクル費用の多くを税金で負担している。それが国民の平等な負担と、容器包装の発生抑制、再使用の妨げになっている。拡大生産者責任を徹底して、リサイクル優先から、2R（リデュース、リユース）を優先する社会への転換が必要である。 びん再使用ネットワークを構成する5つの生協団体（組合員数220万人）では、規格統一されたRびんによるリユースを実践している。年に1千万本をリユースし、CO ₂ を東京ドーム1個分程度削減している。 昨年10月、東京都町田市で商店会連合会と市民、学生と連携し「リユースでエコポイントがもらえる取組み」を行った。今、消費者も変わりつつある。2R社会を目指した容器包装のあり方が求められている。	びん再使用ネットワーク 代表幹事 中村 秀次 氏
	④『パッケージ開発におけるエコへの取組み』 1. HAVI Global Solutions (HGS)の組織、背景 2. HAVI Global Solutions (HGS)グローバルにおける環境に対する取組み20年 3. 日本マクドナルドにおける包材と環境に対する取組み	HAVI Global Solutions(株) ディレクター 羽貝 泰昭 氏
	⑤『資源回収・リサイクルの現場から展望する容器包装リサイクルの新たな可能性』 トムラ・システムズは世界50カ国出飲料容器の資源回収・リサイクル・リユースに関わる事業を展開している。今後の循環型社会構築に向けては、資源の循環とともに経済的で環境負荷の低いシステムづくりが求められる。当社がこれまで日本で手掛けてきた実績を通じ、市民・事業者・自治体参加型の高度化リサイクルの手法の可能性をお話したい。	トムラ・ジャパン(株) セールス&マーケティング部 ゼネラルマネージャー 松村 あづさ 氏
	◎討議 (15:10～16:40) 「今年、何が起きるか」あるいは「何が話題になるか」という短期的な“予想”ではなく、今後10年間という時間軸で包装トレンドを見た場合、包装と社会の関係、またライフスタイルの変化、さらには包装を支える技術の進化など、さまざまな要因から洞察する必要がある。 2020年の包装展望を象徴するキーワードは、大きく“サステナビリティ”と“消費者注視のパッケージ”の二つである。世界の潮流は、これまでの作り手・売り手の論理から完全に脱却しつつある。企業の社会的責任や業績も加味された“サステナビリティ”という考え方が定着するに従い、今後10年間は、包装を単に“環境に優しい”という視点だけでは決められない時代に入ると予測される。 このパネルディスカッションを通じて、世界の常識・日本の常識の違いを浮き彫りにし、これからの国際競争の中で、しかも、低炭素社会・資源の持続的な確保を目指す中で、日本の包装産業が生きる道にながしかの指針を提供出来ればと考えている。 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長 有田 俊雄 氏)	

企画委員

本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。

- 後藤 敏彦 氏 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 (その他NPO代表 委員多数)
- 有田 俊雄 氏 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長
- 長谷川 浩 氏 大日本印刷(株) 環境安全部 シニアエキスパート